

SSKO

Drug Addiction Rehabilitation Center

DARC

Grow up!!

栃木ダルク

ニュースレター 第60号(2008, 3, 11)

新しい栃木DARC

栃木DARC 代表 栗坪千明

最近は随分と暖かい日が多くなってきました。三寒四温とはまさに今の季節をいうのかなと感じています。皆さんもそう感じているのではないのでしょうか。

さて、栃木ダルクも2003年に開設して、先月の2月2日で5年を迎えることができました。これも協力して下さる皆さんのお陰と感謝しています。

5年という月日は、振り返ると色んな事が起きているのですが、あっという間に過ぎてきました。「新しい栃木DARC」と名を打っておきながら、これで終わりみたいな書き方ですが、100m走を走っているわけではないので、振り返ることもたまには必要だろうと思います。私個人の気持ちの変化も激しくて何度かは、この仕事向かないなと辞めようと思ったことがありました。特に人間関係の下手な私はそのことでちょっと躓くと挫けてしまっんですね。それでもなんとか今もここにいるということは持ち直してきたわけですね。良かったのか悪かったのかは神のみぞ知るということです。

ダルクのスタッフになる時もそうでした。今までしていた仕事に戻るか、このまま続けるか。何となく続けてきていますが、なろうという気持ちになった決め手はこれだというものはないのですが、しいて言えば面白いということでしょうか。依存症にとって安全であるということでしょうか。今まではあまりそう思いたくなかったということもあります。安全だからこの仕事をしているというのはなんか社会に負けたような気がして、心の表面の部分ではあまり思いたくないわけですね。でも安全であるということは、とても大事ですね。そこに気を取られないわけですから、別のことが考えられますからね。

そのほかの続けられた理由の一つには、5年の間、徐々に周りから必要とされるようになってきた。ということが挙げられます。施設を始めた時には、今でもそうですが、さらに一部の人たちしかダルクの存在というのは知られていなくて、良い大人が集まって何をやっているのかと疑いの目で見られたり、ある時にはあの有名な宗教団体ではないのかと言われたり、とても自尊心の低くなるような出来事がありました。ですが最近では薬物関係の会議や集まりに出ると、必ずと言って良いほど、ダルクという名前が出るようになりました。これは私たちだけのちからではありませんね。先駆者たちの活躍は大きいです。とにかくやっていて良い活動なのだと思います。

それに加えて、私が言うのもなんですが、施設自身も成長してきています。最近の動きとしては特定非営利活動法人の申請をして、2月29日に栃木県に受理されました。今後は宇都宮市に移行されるのですが、公示期間を終えて認可を待つこととなります。スムーズに進めば5月中旬には登記できると思います。法人化にともない、私たちが考えていることは、公的な助成もあるますが、まずは依存症者とその家族に提供するプログラムの開発と充実です。そのため理事の方には無理を言うてお願いし、その道のエキスパートの人たちが引き受けてくださいました。精神科医、作業療法士、弁護士、元アメリカの治療共同体のカウンセラー、社会福祉の専門家です。ちょっと危ないのは私だけということなのです。6人の侍といったところですよ。

薬物依存症と一口にいても、様々な見方ができます。医療、福祉、犯罪、家庭問題、二次的な問題、そのほか様々な問題が重なり、絡み合い存在しているのがこの病気です。私たちは今まで日常的にこの問題に引きずられているということなんですね。これだけたくさん問題には私たちリカバリングスタッフだけでは立ち向かうことは出来ませんし、また良い判断もできないだろうと思っています。正直言ってスタッフは本人との関わりだけで手一杯というのが現状なんですね。その意味でもこのNPOには期待しているところで

また、恐縮ではありますが、このニュースレターを読まれている皆さんの更なる支援、指導を今後ともお願いいたします。

『 私の高校時代 』

マサル

私が、薬物使用を初めてしたのは中学校2年生の時です(+_+)
当時、流行していた映画に憧れていた私は薬物に興味がありカッコイイと思っ
て、ひとつ歳下の友人の誘うままに何の躊躇も無く大麻を吸い込みました(~_~)、
なんだか気持ちが良くなり、すぐに眠ってしまったのを覚えています。いま思うと、
その時から私の精神年齢は成長を止めてしまい、幼いままでその後の人生を歩ん
できたと思います。

初めて使用した大麻は連続しようには繋がりませんでしたが、それから半年が過
ぎて運命の出会いをしてしまいました(>_<)先輩に誘われてクラブに行ったので
すが、そこでは、店内にいる大半のお客が堂々とバツと言われるエクスタシー乱用し
ていて、トランスミュージックに合わせて楽しそうに踊っていました。

初めてで何が何だか分からず立ち尽くす私に、突然「口を開けろ」と先輩に言わ
れ、言われるがままに口を開けると口の中に苦い錠剤が1錠飛び込んできて、そし
て、すぐさま水を渡され「ゴクン」と飲み込むと手を引っ張られダンスフロアー
に連れて行かれました。私は見よう見真似で踊りだすと段々と薬が効いてきたのか
体が気持ち良くなりテンションも上がってきて30分後には、手が付けられない位
はしゃぎ激しく踊っていました(~_~)

その気持ち良さは朝方になっても持続し続けて閉店まで踊り続けました。

その興奮は冷めやらず、その日から2日間眠れませんでした(>_<)
その日以来すっかりとトランスのクラブイベントにハマってしまい毎週末クラブに
通いつめるようになり、一緒に薬物使用をする仲間も増えて常連扱いされる様にな
りました(~_~)

ある日クラブへ行こうとしていつもの様に先輩に電話をかけると、その日は都合
が悪いらしくて断られてしまい、車の無い私はその日はクラブへ行くのを諦める事
にしました(>_<)しかし、夜中になると薬の欲求が襲い、どうしても薬が欲しくなり、
気が付いた時には自転車に乗り今市市から宇都宮まで3時間を架けひた走っていま
した(ToT)/~~クラブに着くと、その武勇伝を聞いたクラブのオーナーが薬をプレゼ
ントしてくれました。その日から私は気に入られてオーナーに会う度に薬をタダで貰
い、時々東京のクラブにも連れて行って貰う様になりました(^^♪

それから2年が過ぎたある日、いつもの様にクラブへ行くと、オーナーに呼ばれ

てVIP席に行ってみると、大きなパケ袋に入ったバツとコカインを渡され、「今日からお前が売れ」と一言いわれて、その日から私はプッシャーと言われる売人になりました^m^

次の日から24時間好きな時に好きなだけ薬物使用が出来るようになった私は、まだ学生だったので学校の休み時間の度にトイレに行きコカインを鼻からすいながら高校時代を過ごしました(>_<)

そして、学校が長期休みに入ると、夜はクラブに行き、閉店時間になると友人の働いている日焼けサロンへ行き大音量で音楽をかけ薬を配って遊び、また夜になるとクラブに行くという生活の繰り返しでした。

ある日、お客から「シャブは無いの？バツとシャブを合わせると気持ちいいんだけどなあ〜」と言われ、それまでバツ、コカイン、大麻、チョコ、アヘン、ケタミン、マジックマッシュルームなど様々なドラックを使用してきた私でしたが、なぜかシャブは使用した事が無く、ものすごく使用してみたくなりました。そして、知り合いに頼みシャブを手に入れて使用してみると、とても体が楽になり目が冴え何にでも集中でき、一発でハマりました^m^それを仲間に伝え皆で乱用するようになり、使い方もたくさん使っても困れないでいられるとか、一度に沢山使用して豪快に使うなどパワーゲームする様になりました m()m その結果、仲間は勘繰り合うようになりバラバラになって行きクラブに集まるのも人数が減り、段々つまらなくなってきたのと、高校生活もあとわずかだったので、プッシャーもやめてクラブも一緒に卒業することにしました(~o~)

その時に薬も辞めていれば良かったのですが、その後、専門学校に入学してからも東京で薬を使い続けクラブにも通い、どん底への道を辿る事になります(>_<)

私の学生時代はこんな感じで楽しく、そしてダーティーな日々でした。いま振り返ると今の自分の病気の深さが伺い知ることが出来、薬を止めるだけでは無く、性格上の欠点も見直し改善していかなければ、社会の有用な一員として社会復帰することは難しいと思います(~_~;)私の回復には長い時間がかかるのではないのでしょうか(>_<)

だから、先行く仲間の提案を受け入れ、先月からトレーニーに上がり、更なる回復の為に勤める決心をしました。そんな私の合言葉は『EASY DOES IT、』です(^0_0^)



3月予定

- 3月1日 北関東薬物関連問題研修会
- 6日 栃木県薬物関連問題協議会
- 7日 喜連川社会復帰促進センター覚醒剤教育
- 8日 第2回どん底大会
- 9日 厚生労働省研究成果報告会
- 11日 アルコール関連問題研究会
- 13日 再発予防プログラム研修会
- 14日 喜連川社会復帰促進センター覚醒剤教育
- 19日 喜連川社会復帰促進センター研修会
- 21日 喜連川社会復帰促進センター覚醒剤教育
- 26日 黒羽刑務所での覚醒剤教育
- 28日 喜連川社会復帰促進センター覚醒剤教育
- 30日 宇都宮家族会

発行所

郵便番号一五七-〇〇七三 東京都世田谷区砧六一二六一二二
特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会

2月献金を下さった方々

こころの相談室「リカリ」吉岡様、アクション栃木家族会様、熊倉徳次様
水野啓次郎様、中原区青少年指導員連絡協議会様
匿名12名様

2月献品を下さった方々

バルトロメオ・マクマホン様 匿名6名様

編集

栃木DARC

宇都宮OP

那須TC

〒320-0014

〒329-3225

栃木県宇都宮市大曾 2-2-14

栃木県那須郡那須町豊原丙 3227-2

形松ビル 3F

TEL 028-650-5582 FAX 650-5597 TEL 0287-77-7157 FAX 77-7158

ホームページアドレス <http://www.t-darc.com>

Eメール: nesm@t-darc.com

定価100円